

負圧式ワンマンブリーダー：OM-225

取り扱い上の注意とトラブルシューティング

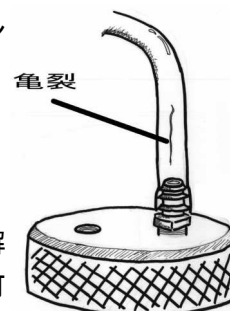
●フルードが出てこない、出てくる容量が少ない。

1. タンクの中が負圧になっているか？ ホース口を手の甲など皮膚の柔らかい部分に当てて確認。または、バキュームゲージで確認。(空気圧 0.5Mpa で-66kpa 程度)
2. ブリーダープラグの詰まりはないか？ サビで孔がふさがっていたり、ゴムキャップが取れていて、泥などが詰まっている。ブレーキペダルを踏んでみて、フルードがスムーズに出てくるか確認。
3. ホイールシリンダーの孔は詰まっていないか？
4. マスターシリンダーからのパイプラインに、詰まりまたはつぶれはないか？
5. 車両側の配管が長い場合、その抵抗によって出てくる量が少なくなります。また、後輪側と前輪側でも吸引量に差が生じます。トラック、バンなどに於いては、リヤ配管にプロポーションバルブが付いていて、かなりの抵抗となるため、吸引量は少なくなってしまう。
6. 車両のブレーキシステムを確認する。ハイドロブースターなどのブレーキシステムは、独自の作業手順があり、通常のエアー抜き作業ではできないものがあります。



●タンクの中が負圧にならない。

1. アルミキャップ内側に、ゴムパッキンが付いているか？ または、ゴムパッキン部にゴミなどが付着していないか、変形、亀裂はないか？
2. タンクの開口部に変形、亀裂はないか？
3. ホースに亀裂が入っていないか？
4. エアーコンプレッサーの圧力は出ているか？ (0.5Mpa ~ 0.7Mpa)
5. バキュームジェネレーター部品のチェック。バキュームジェネレーターを分解した場合、内部の小部品を紛失したり、Oリングに傷が付いて性能が低下する可能性があります。できるだけ、当社まで修理、オーバーホール依頼を下さい。



※ ジェネレーターの分解時は、必ずエアー接続を外しておいてください。

●ジェネレーターのフィルター(サイレンサー)部からフルードが吹き出してくる。

このような現象が発生した場合は、タンク内の廃油が満タンか、もしくは作業中にタンクを倒してしまったことが考えられます。この時の処置として、タンク内の廃油を空にし、ジェネレーター内部に入ったフルードを水ですすぎ、よく乾かしてから再度使用してください。

※ タンク内の廃油は、8分目程度になったら1度作業を中止して、タンク内を空にしてから次の作業に入る事がポイント。

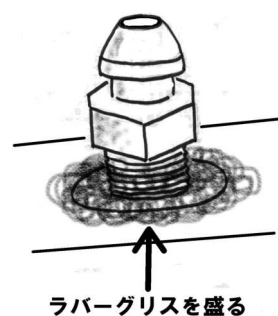
●ブレーキフルードは出てくるが、いつまでもエアーが抜けきらない。

1. 通常は配管の中のエアーが、フルードと一緒に出てくるので、時間と共に少なくなり最後には泡(気泡)は消えてフルードのみとなる。
2. ある程度フルードを吸い出しても気泡が消えない時には、ブリーダー補助リングをブリーダー口に押しつけて(この時、当たり面がザラついている場合は効果が出ない。)、ブリーダーネジ部からのエアー流入を防げば、フルードの中のエアー混入状態が確認できます。

3. ブリーダー補助リングが使用できない場合は、ブリーダーのネジ部にラバーグリスを塗ることで、ここからのエア流入を防ぐ事ができます。

※ 特に足で踏む加圧式と違い、ホース内が負圧になっていると、小さな気泡が数倍に大きく見える。

※ ピストンカップなどが傷んでいる場合、加圧式に耐えられても、逆圧である負圧に対しては、カップからエアを吸ってしまう可能性もある。



●作業時にホース内のエアがなくなる。

エアブリーダーから負圧を用いてエア抜きを行う場合、ゆるめたエアブリーダーのネジ部から、エアが混入する現象が発生します。これは車両の配管・付属機器の抵抗が大きいため、抵抗の少ないエアブリーダーのネジ部に、より強力な負圧がかかるためです。この現象は、当社製品に限らず、負圧を用いた「エア抜き作業」では発生します。「エア抜き完了」の見極め方法は下記の通りです。

見極め方法

まず、ブリーダー補助リングが有効に作用しているかチェックします。この補助リングは、ディスクキャリパーへの使用には有効ですが、ホイールシリンダーへの使用には適しておりません。この場合、ブリーダーネジ部とホイールシリンダーの結合部に、ラバーグリスを多めに盛るということが有効です。

この方法でも混入が認められる場合は、下記の方法で見極めます。

1. コックバルブを少し閉じて、負圧を弱めた状態でエアの流れを見る。

※ 強い負圧吸引をすると、キャビテーション現象（船のスクリューなどが、空気がないのに気泡を発生させる現象）により、混入エア以外の気泡が発生することがあります。

2. ホースを軽くつまんでエアの流れを見る。

3. エアブリーダーを締め、再度ネジを緩めてエアの流れを見る。

これらの方法で、気泡が同じ大きさで規則的に流れている場合は「エア抜き完了」しています。大きさが不揃いであったり、不規則である場合は、まだ配管内にエアが残っているものと思われます。

上記の方法を用いる場合、負圧の強弱で、混入しているエアの流れ方が変化しますので、瞬時の判断はできません。若干の時間をおいて判断して下さい。

また、負圧を用いて「エア抜き」を行う場合、ブレーキの構造上、一回目のブレーキ操作時に軽く踏み切ってしまう場合がありますが、異常ではありません。必ず作業完了後に、数回ブレーキ操作を行い、踏みしろを確認してから車両の移動を行ってください。

●タンク吊り金(フック)

フックを使用しなかった場合、タンクは簡単に転倒してしまいます。ジェネレーターにフルードが入ると、性能が低下し排気部から吹き出します。必ず、フックを使って作業することが必要です。

株式会社ハスコ・サービス部

埼玉県朝霞市栄町 3- 6- 4 5 TEL 048-461-0101 FAX 048-461-1177

HASCO ホームページ URL <http://hascotools.co.jp>